

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果について(小6・中3)

市内の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成29年4月18日(火)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。以下は、その集計結果です。

【実施教科】

小6…国語、算数の2教科
中3…国語、数学の2教科

【実施内容】

国語A・算数A・数学A…主として「知識」に関する問題
国語B・算数B・数学B…主として「活用」に関する問題
児童生徒質問紙、学校質問紙・・・生活習慣や学習環境等に関する学習状況調査

【用語解説】

※A問題(主として「知識」に関する問題)

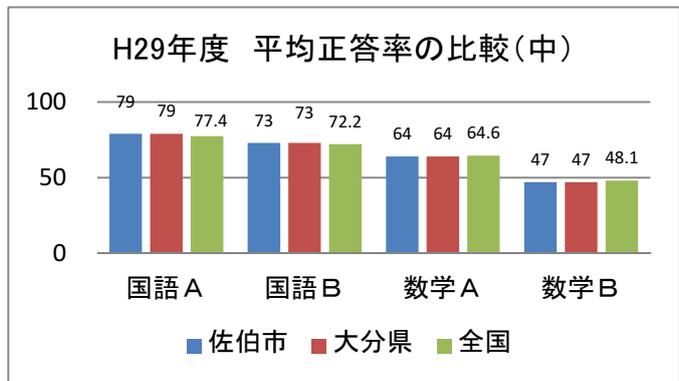
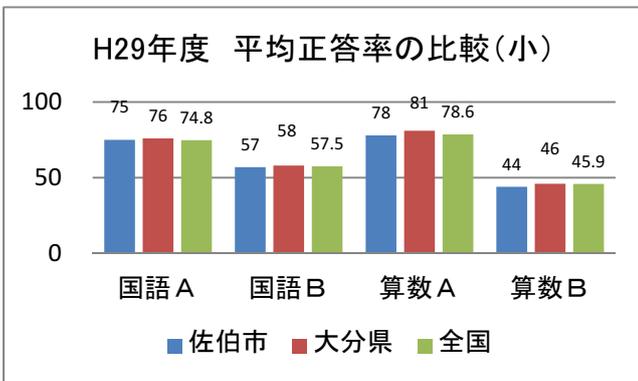
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっておくことが望ましい知識・技能などを中心とした出題

※B問題(主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

【平均正答率(全問題数のうち、どのくらいの問題を正答したかの割合)[%]の全体比較】

	小学校6年生				中学校3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
佐伯市	75	57	78	44	79	73	64	47
大分県	76	58	81	46	79	73	64	47
全国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1



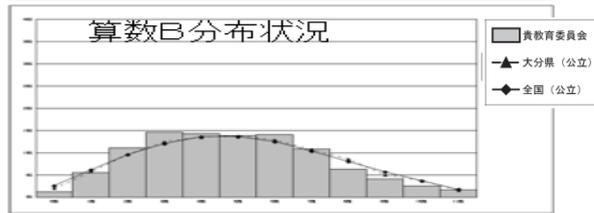
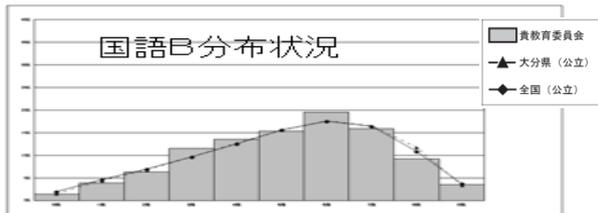
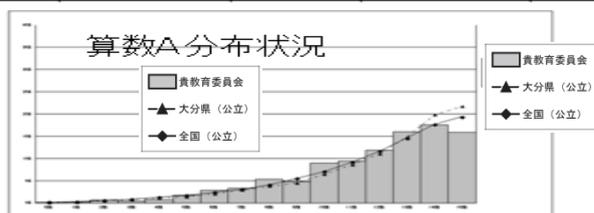
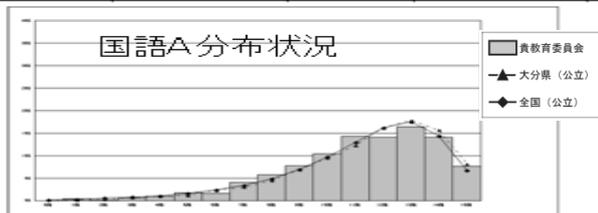
<結果概況>

- A問題では、全国の平均正答率に比べ、小学校国語で0.2ポイント上回り、算数で0.6ポイント下回った。中学校国語で1.6ポイント上回り、数学で0.6ポイント下回った。
- B問題では、全国の平均正答率と比べ、小学校国語で0.5ポイント、算数で1.9ポイント下回った。中学校国語で0.8ポイント上回り、数学で1.1ポイント下回った。
- 昨年度は、小学校の算数A、中学校の国語Bが全国の平均正答率を超えていたが、本年度は算数・数学においてA・Bともに平均正答率を下回る結果となった。

<課題と対策>

- 中学校の国語Bを除いて、B問題(主として「活用」に関する問題)が全国の平均正答率を下回った。このことから、与えられた情報から必要な情報を取り出して、説明したり、要旨をまとめたりする指導が必要となる。また、大分県教育委員会が示している「数学の学習で説明する力を伸ばす基本形(例)」「言語能力育成ハンドブック」を活用する等、説明の順序や内容についての具体的な指導が必要である。

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率
佐伯市	11.2/15	75	5.2/9	57	11.7/15	78	4.9/11	44
大分県	11.5/15	76	5.2/9	58	12.1/15	81	5.1/11	46
全国	11.2/15	74.8	5.2/9	57.5	11.8/15	78.6	5.1/11	45.9

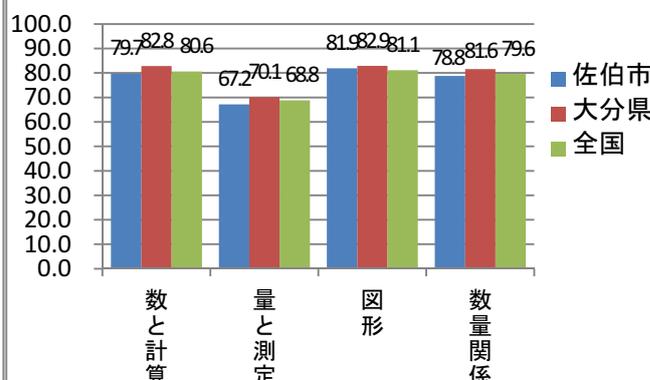
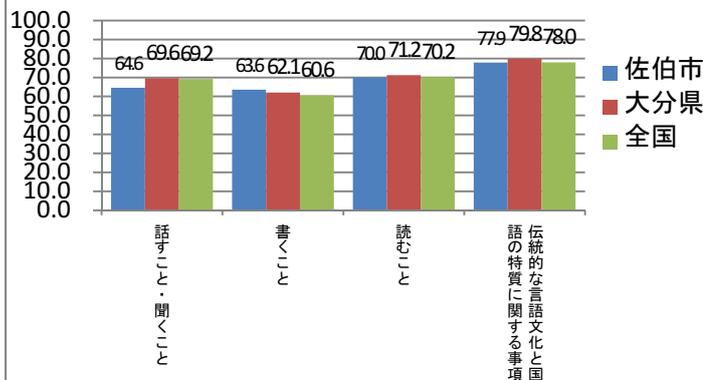


国語A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	64.6	69.6	69.2
書くこと	63.6	62.1	60.6
読むこと	70.0	71.2	70.2
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	77.9	79.8	78.0

算数A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	79.7	82.8	80.6
量と測定	67.2	70.1	68.8
図形	81.9	82.9	81.1
数量関係	78.8	81.6	79.6

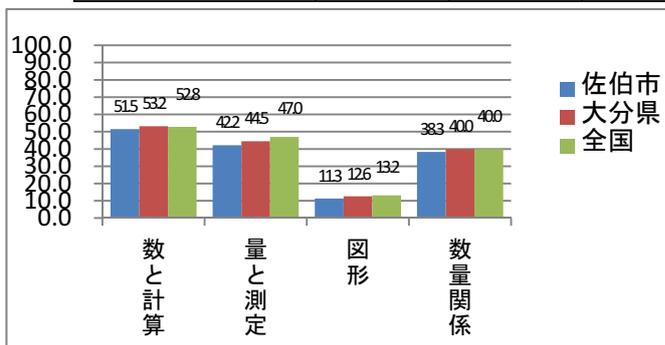
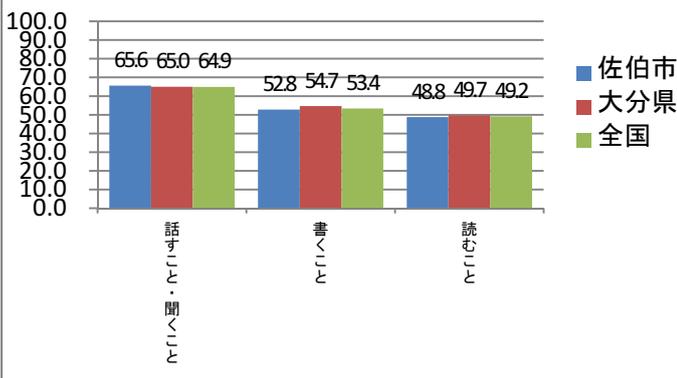


国語B 平均正答率(%)

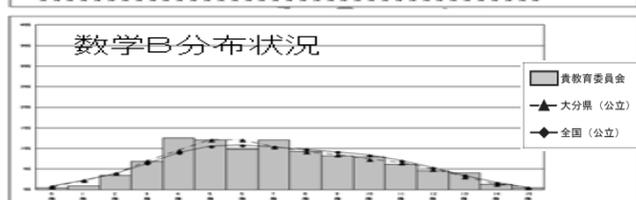
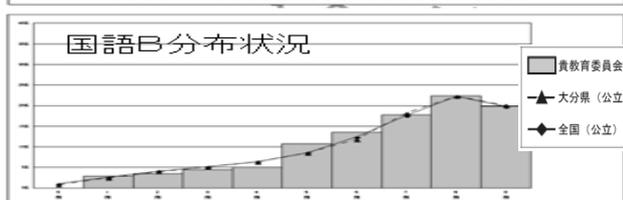
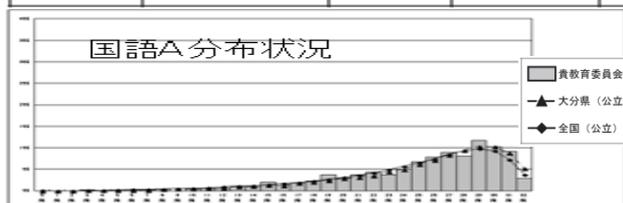
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	65.6	65.0	64.9
書くこと	52.8	54.7	53.4
読むこと	48.8	49.7	49.2

算数B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	51.5	53.2	52.8
量と測定	42.2	44.5	47.0
図形	11.3	12.6	13.2
数量関係	38.3	40.0	40.0



	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均 正答率							
佐伯市	25.2/32	79	6.6/9	73	23.1/36	64	7.1/15	47
大分県	25.3/32	79	6.5/9	73	23.1/36	64	7.0/15	47
全国	24.8/32	77.4	6.5/9	72.2	23.3/36	64.6	7.2/15	48.1

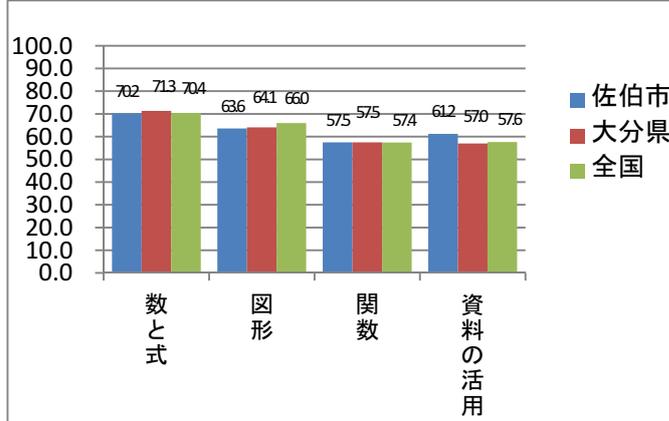
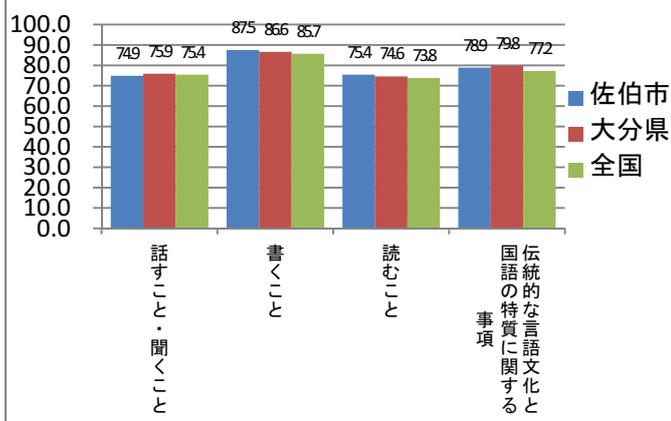


国語A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	74.9	75.9	75.4
書くこと	87.5	86.6	85.7
読むこと	75.4	74.6	73.8
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	78.9	79.8	77.2

数学A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	70.2	71.3	70.4
図形	63.6	64.1	66.0
関数	57.5	57.5	57.4
資料の活用	61.2	57.0	57.6

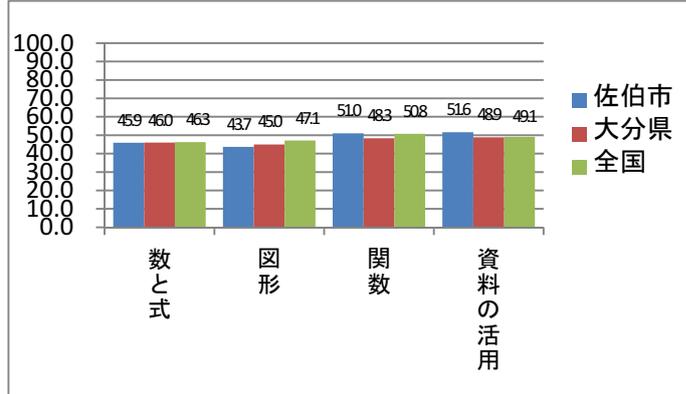
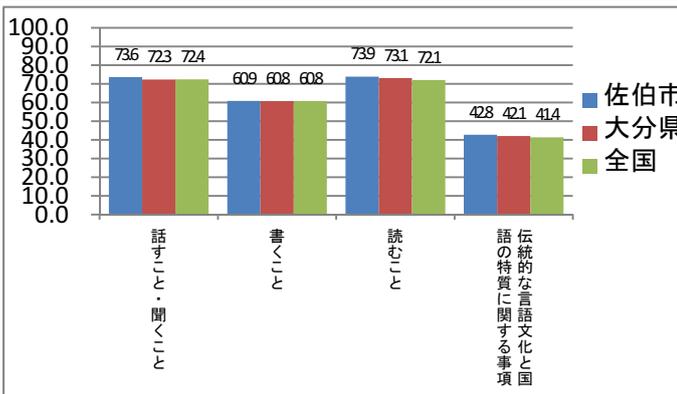


国語B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	73.6	72.3	72.4
書くこと	60.9	60.8	60.8
読むこと	73.9	73.1	72.1
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	42.8	42.1	41.4

数学B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	45.9	46.0	46.3
図形	43.7	45.0	47.1
関数	51.0	48.3	50.8
資料の活用	51.6	48.9	49.1



小学校国語

佐伯市の平均正答率	75%
大分県の平均正答率	76%
全国の平均正答率	74.8%

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数15問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・7問(大分県8問、全国6問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・6問(大分県15問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・3問(大分県3問、全国3問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・9問(大分県0問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【読むこと】【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆4二 グループの話合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する(55.2%)
- ◆7(1) 漢字を書く(参加たいしょう)(41.9%)
→俳句の情景を捉えること、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことに課題がある。

【話すこと・聞くこと】

- ◆1 学級文集のタイトルを決める話合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選択する(64.6%)
→互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話合うことに課題がある。

【書くこと】

- ◆2二 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する(46.0%)
→手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題がある。

②具体的な改善方策

○情景や作者の思いを想像したり、想像したことを交流したりする

- ・俳句を繰り返し音読しながら、言葉の美しい響きや俳句のもつリズムに着目して、俳句に表れている情景や作者の思いなどについて感じたことを交流する。
- ・好きな俳句を選んで俳句集を作るために、俳句を繰り返し音読したり、それぞれの俳句のよさについて話合ったりする。

○漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する

- ・漢字習得のための練習とともに、漢字を取り立てて指導する時間を設定する、授業時間のはじめに漢字の書きを練習する、家庭学習で漢字の書きの練習をさせるなど、習得のための手立てを学校全体で行っていく。
- ・同音異義の漢字等に注意しながら文を作り、それぞれの漢字の意味を確認する。

○話合いの中の発言の内容を意識させたり、可視化して示したりする

- ・日常の話し合い活動の中で、子ども同士の発言の内容(相違点・共通点)を意識させたり、メモをしたりする活動を重ねていく。また、話合いを可視化するなどして振り返り、内容を構造化する指導も考えられる。

○他の教育活動と関連させて手紙の構成等について理解させていく

- ・実際に案内状や礼状などを地域の方に出す取組を行う。これらの取組は国語科や書写の時間だけでなく、総合的な学習の時間等においても行われることが想定される。また、「前文」「本文」「末文」「後付け」といった手紙全体の構成、署名と宛て名の位置関係といった手紙の形式等の知識については、形式のみを教えるのではなく、例えば、後付けの位置関係が書き手の敬意を表すことになることなども併せて教えていく。

小学校国語

佐伯市の平均正答率	57%
大分県の平均正答率	58%
全国の平均正答率	57.5%

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数9問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・4問(大分県4問、全国4問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・3問(大分県7問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・4問(大分県3問、全国4問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・6問(大分県2問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【話すこと・聞くこと】【書くこと】

- ◆1三 「折り紙のみりょくについて、スピーチメモとグループの話合いで出された意見を基に書く(47.2%)
→目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題がある。
- 【書くこと】
 - ◆2三 「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の[イ]に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く(32.7%)
→目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題がある。
- 【読むこと】
 - ◆3二 「きつねの写真」を読んだあとの話合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する(26.8%)
→自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題がある。
- 【書くこと】【読むこと】
 - ◆3三 「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く(45.0%)
→物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題がある。

②具体的な改善方策

○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話す

- ・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話すために、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるようする。話の構成や内容を工夫するために、自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりすることなどについて指導する。

○各教科等において目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く活動を位置付ける

- ・目的や意図に応じて、どちらが読み手にわかりやすく伝えることができるかを判断することができるようにするために、新聞やリーフレットなど文章の種類や特徴を踏まえ、書く内容や分量などを考えながら、目的や意図に応じて簡単に書くというような学習活動を工夫する。

○物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする

- ・各自考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら交流する機会を設定する。取り上げた叙述とその叙述を基にどう考えたのかを交流し、互いの考えの共通点や相違点を明確にすることが、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながっていくと児童が実感できるように指導する。

○物語を読み、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる

- ・色や情景などの描写から受けるイメージを交流する。また、物語全体を見通すことができるような学習シートを用いたり、感想を記入したカードやノートを活用したりしながら、どの叙述に着目したのかを明確にすることができるように指導する。

小学校算数

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	78%
大分県の平均正答率	81%
全国の平均正答率	78.6%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数15問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・7問(大分県8問、全国7問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・8問(大分県11問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・1問(大分県0問、全国0問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・7問(大分県2問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【数と計算】

- ◆2(4) $5 \div 9$ の商を分数で表す(56.2%)
→商を分数で表すことに課題がある。

【数と計算】【数量関係】

- ◆2(3) $6 + 0.5 \times 2$ を計算する(63.8%)
→加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題がある。

【量と測定】

- ◆4 重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ(66.1%)
→任意単位による測定について理解することに課題がある。

【数量関係】

- ◆8 はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ(76.9%)
→未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すことに課題がある。

②具体的な改善方策

○整数の除法の結果は分数で表すことができることを理解できるようにする

- ・「2mのテープは、3mのテープの何倍になるか」等の具体的場面で、 $2 \div 3$ と立式した後、商を $\frac{2}{3}$ と表現することで、何倍かを表すときにも分数を用いることがあることを確認する活動が必要となる。さらに、 $\frac{2}{3}$ を $2 \div 3$ と表し計算することで、分数の大きさの見当をつける活動を展開していく。

○具体的場面から計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにする。

- ・計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら理解できるようにする。指導に当たっては、各教科等の学習場面において、式に数値を当てはめて、答えを求める活動を設けていく。

○既習の量の比較や測定の方法を活用し、測定の方法について実感的に理解できるようにする

- ・既習の量の比較や測定の方法を想起して、新たに学習する量の比較や測定に活用することができるようにする。また、長さやかさなどの既習の内容を振り返ったり、比較や測定の方法について見通しをもったりすることができるようにする。

○未知の数量を表す□などの記号を用いて立式することができるようにする

- ・図を用いたり、□に具体的な数値を当てはめたりして考察する活動を展開していく。「はじめに持っていたシールの枚数を□枚とする」など、□が表す数量を明確にした上で、図に表し、場面を的確に捉えて立式する活動が考えられる。

小学校算数

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	44%
大分県の平均正答率	46%
全国の平均正答率	45.9%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数11問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・2問(大分県2問、全国2問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・2問(大分県6問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・7問(大分県7問、全国7問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・8問(大分県5問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【数と計算】【数量関係】

- ◆1(3) 2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く(35.7%)
→問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述することに課題がある。

【量と測定】【数量関係】

- ◆3(2) 仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める(19.5%)
→仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することに課題がある。

【図形】【数量関係】

- ◆5(2) 与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く(11.3%)
→身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することに課題がある。

②具体的な改善方策

○数量の関係を言葉や式を用いて一般化して表現することができるようにする

- ・児童が見いだしたきまりを具体的な数値を用いて表現した場合に、「全てに共通することはどのようなことですか。」などと問い返し、児童自らが、見いだしたきまりを言葉や式で一般化して表現しようとする態度を育てていく。また、そのことが、自分の考えを相手にわかりやすく説明したりわかりやすく伝え合ったりする上で有用であると、児童が実感できるようにする。

○測定値の平均を工夫して求めるよさを実感できるようにする

- ・グラフ、式、言葉などを関連付けて式の中の数の意味を解釈し、説明する活動により、仮の平均の考えを活用し、平均を工夫して処理することができる場合があることを実感できるようにする。

○身近なものに置き換えたときの基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現することができるようにする

- ・「どの数値が基準量、比較量を表しているのか」を捉える活動が必要になる。その際、数量の関係を身近なものや図などに置き換えて、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え判断する活動を展開する。

中学校国語

佐伯市の平均正答率	79%
大分県の平均正答率	79%
全国の平均正答率	77.4%

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数32問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・17問(大分県16問、全国20問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・22問(大分県27問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・3問(大分県2問、全国3問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・9問(大分県4問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【話すこと・聞くこと】

- ◆7ー1 先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す(49.3%)
→相手に分かりやすいように語句を選択して話すことに課題がある。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆9ー1 漢字を書く(組織のキボを大きくする)(66.1%)
→文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。
- ◆9三イ 適切な語句を選択する(よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)(55.9%)
→語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。
- ◆9五 話合いの記録として適切な言葉を考える(36.3%)
→事象や行為などを表す多様な語句について理解することに課題がある。

②具体的な改善方策

○伝えたい内容を明確にして相手にわかりやすく伝えるように話す

- ・インタビューのリハーサル等の場面で、引き出したい情報を引き出すことができたのか、相手にわかりやすい語句を選んで話すことができたのかなどの観点から尋ね方を振り返り、実際のインタビューに生かすなどの学習活動を展開する。

○日常的な漢字の学習

- ・実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養う必要がある。そのためには、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けたり、書写の学習との関連を図ったりして、楷書で正しく整った文字を書くように指導する。

○場面に即した語句・語彙指導の工夫

- ・各教科等の学習や読書活動をする中で出合った言葉を取り上げ、それぞれの意味を確認するとともに、具体的な使用例を考えるなどの学習活動を展開していく。その際、語源などを確かめたり、似た意味や反対の意味の言葉を整理したりするように指導する。

○多様な語句・語彙指導の工夫

- ・学校生活の中での話合いなど具体的な場面を取り上げ、その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの学習活動を展開していく。その際、漢語などを用いて短い言葉で表す方がよいのか、文や文章を用いて丁寧を表す方がよいのかなど、目的や場面を踏まえて考えさせる。

中学校国語

佐伯市の平均正答率	73%
大分県の平均正答率	73%
全国の平均正答率	72.2%

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数9問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・7問(大分県6問、全国6問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・5問(大分県7問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・1問(大分県1問、全1問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・4問(大分県2問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【書くこと】【読むこと】【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆1三 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く(42.8%)
→表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことに課題がある。

【話すこと・聞くこと】【書くこと】

- ◆2三 スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す(57.2%)
→相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話すことに課題がある。

②具体的な改善方策

○本を読んで感じたことや考えたことを交流し、ものの見方や考え方を広げる

- ・印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明する学習活動を展開していく。その際、取り上げた場面や描写がどのような内容であるのかを明確にしたり、感じたことや考えたことを具体的に説明したりすることができるように指導する。さらに、比喩や反復などの表現の技法についての知識を生かすなど、これまでの学習を踏まえた指導をしていく。

○交流を通して振り返り、よりわかりやすい内容や表現の仕方について考える

- ・実際にスピーチなどをする様子を機器を用いて録画・録音し、伝えたい内容が正確に伝わっているか、聞き手にわかりやすい言葉になっているかなどについて振り返り、話し手と聞き手の両方の立場から検討する等の学習活動を展開していく。その際、交流を通して考えたよりわかりやすい内容や表現の仕方を、次の学習活動に生かすように指導する。

中学校数学

佐伯市の平均正答率	64%
大分県の平均正答率	64%
全国の平均正答率	64.6%

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数36問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・7問(大分県7問、全国7問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・17問(大分県14問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・15問(大分県13問、全国14問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・19問(大分県21問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【数と式】

- ◆2(1) 5mの重さがagの針金の1mの重さを、aを用いた式で表す(53.2%)
→数量の関係を文字式で表すことに課題がある。
- ◆2(4) 等式 $x + 4y = 1$ をyについて解く(50.8%)
→等式を目的に応じて変形することに課題がある。

【図形】

- ◆4(3) 半径が5cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める(26.3%)
→扇形の弧の長さを求めることに課題がある。
- ◆6(1) 錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ(31.5%)
→錯角の意味の理解に課題がある。
- ◆7(2) 与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ(44.3%)
→作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解することに課題がある。

【関数】

- ◆10(3) 反比例の表から比例定数を求める(34.1%)
→与えられた反比例の表における、比例定数の意味の理解に課題がある。

②具体的な改善方策

○数量の関係や法則などを文字式で表すことができるようにする

- ・数量を具体的な数に置き換えて関係を捉える活動を取り入れる。その際、基準量が、言葉を使った式「(□の重さ) ÷ (□の長さ)」等で表されることを見いだし、2つの数量の関係を文字式で表すことができるように指導する。

○ある文字について解くことの意味を理解し、等式を変形することができるようにする

- ・数量関係が、 $x + 4y = 1$ 等で表される具体的な場面を設定し、等式を変形する目的を明確にしてxやyについて解く活動を取り入れる。

○扇形の弧の長さや面積が中心角の大きさに比例することを用いて、それらを求めることができるようにする

- ・扇形を円の一部分として捉え、弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することを確認するために、円を紙で作って、折ったり切ったりするなどの観察、操作や実験をさせる。さらに、円と扇形を関連付け、扇形の弧の長さや面積とその中心角の大きさの関係を捉える活動を展開する。

○2直線に1直線が交わってできる角の位置関係について理解できるようにする

- ・2直線に1直線が交わる場合、「2直線の位置関係に関わらず、同位角や錯角は存在する」、「2直線が平行ならば、同位角や錯角はそれぞれ等しくなる」ことを確認し、同位角や錯角の位置にある角を見い出す活動を取り入れる。

○平行四辺形になるための条件を具体的な場面で用いることができるようにする

- ・平行四辺形の作図の手順に用いられている条件や、具体物にみられる平行四辺形になるための条件を指摘する活動を取り入れ、平行四辺形になるための条件を具体的な場面で捉え、それを用いることができるように指導する。

○比例、反比例の比例定数の意味を理解できるようにする

- ・比例についてaを比例定数として、 $y = ax$ または、 $\frac{y}{x} = a$ という式で表される関係であることや、反比例についてaを比例定数として、 $y = \frac{a}{x}$ または $xy = a$ という式で表される関係であることを確認する活動を取り入れる。

中学校数学

佐伯市の平均正答率	47%
大分県の平均正答率	47%
全国の平均正答率	48.1%

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 15問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・3問(大分県3問、全国3問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・7問(大分県5問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・8問(大分県9問、全国8問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・8問(大分県8問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【図形】

- ◆1(2) 四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGの模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する。(13.2%)
→2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

【数と式】

- ◆2(3) 六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する(13.0%)
→事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

【関数】

- ◆3(2) 与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万m³になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する(14.3%)
→事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

【資料の活用】

- ◆5(3) 「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する(18.9%)
→資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

②具体的な改善方策

○事象の特徴を的確に捉え、数学的に説明できるようにする

- ・日常的な事象において、前提とそれによって説明される結論の両方を説明する場面を設定し、数量や図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるように指導する。

○事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるようにする

- ・事柄の意味を事象に即して読み取り、読み取った意味に基づいて、根拠を明確にし説明できるように指導する。その際、式や数値が何を表しているかを読み取る場面を設定することが大切である。

○問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

- ・様々な問題を数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」(グラフを描くこと等)とその「用い方」(座標を読むこと等)について考え、説明することができるように指導する。

○判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする

- ・2つの分布の比較等、資料の分布の様子から検討し、判断する場面を設定する。その上で、分布の特徴を捉え、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れる。

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童生徒質問紙調査

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値
着色は全国平均以上の項目。◎は昨年度より上昇、▼は低下した項目

【小学校】授業に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
61	目標（めあて・ねらい）が示されていた	▼ 52.8	58.6	60.4
62	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた	▼ 36.6	40.3	43.1
63	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた	▼ 74.3	68.9	76.0
39	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれる	▼ 49.5	50.5	57.8
56	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた	▼ 49.1	52.9	53.2
57	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた	▼ 45.0	46.9	49.0
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意	▼ 22.2	21.6	23.4
8	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	◎ 53.0	60.1	47.0
55	先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた	▼ 28.3	30.5	34.6
58	自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた	▼ 29.2	29.5	35.5
59	学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた	▼ 29.0	34.6	32.1
60	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた	▼ 20.9	24.7	25.8
66	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい	◎ 40.0	32.9	39.1
67	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい	▼ 25.5	23.4	27.4
68	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	▼ 24.0	26.9	29.7

【小学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
15	普段（月～金曜日）、1時間以上勉強する	▼ 68.4	64.4	68.9
16	学校が休みの日に、1時間以上勉強する	▼ 58.5	57.3	63.1
17	学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしている	◎ 67.6	53.7	35.4
18	普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書をする	▼ 32.6	36.5	37.3
29	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	▼ 25.3	30.0	26.8
30	家で、学校の宿題をしている	◎ 91.6	88.0	85.0
31	家で、学校の授業の予習をしている	▼ 9.7	16.3	13.0
32	家で、学校の授業の復習をしている	▼ 21.1	23.6	26.5

【小学校】学びに向かう力に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	▼ 71.2	73.4	73.3
5	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	▼ 23.4	26.7	26.3
33	学校に行くのは楽しいと思う	▼ 52.2	55.4	55.9
34	学校で、友達に会うのは楽しいと思う	▼ 80.1	83.5	80.4
35	学校で、好きな授業がある	▼ 72.9	78.4	79.3
36	話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている	▼ 11.3	13.9	18.7
37	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	▼ 54.2	60.8	61.8
38	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	▼ 48.9	47.3	51.4

【中学校】授業に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
63	目標（めあて・ねらい）が示されていた	◎ 60.1	53.1	58.4
64	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた	▼ 28.9	25.3	31.3
65	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた	◎ 58.3	47.6	57.7
41	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	▼ 27.8	30.1	35.5
58	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた	▼ 31.2	42.5	43.9
59	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた	▼ 34.3	38.9	43.4
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意	▼ 15.6	17.6	19.6
8	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	▼ 48.8	59.7	54.7
57	先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた	▼ 23.6	26.8	33.9
60	自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた	▼ 21.3	23.7	22.9
61	学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた	▼ 18.6	26.2	24.7
62	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた	▼ 16.0	17.1	21.2
68	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい	◎ 34.5	35.6	32.2
69	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい	◎ 31.2	30.4	29.7
70	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	▼ 17.1	19.7	22.0

【中学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
15	普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上勉強する	◎ 29.5	35.4	26.1
16	学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強する	▼ 45.8	41.8	47.4
17	学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしている	◎ 50.5	38.5	44.6
18	普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書をする	◎ 31.6	29.2	28.9
31	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	◎ 16.5	18.6	15.9
32	家で、学校の宿題をしている	▼ 69.4	67.7	77.1
33	家で、学校の授業の予習をしている	▼ 4.5	11.3	5.1
34	家で、学校の授業の復習をしている	◎ 17.4	18.9	16.3

【中学校】学びに向かう力に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	▼ 63.8	73.3	75.2
5	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	▼ 14.5	19.9	21.9
35	学校に行くのは楽しいと思う	▼ 39.3	47.3	52.3
36	学校で、友達に会うのは楽しいと思う	▼ 69.6	75.5	76.9
37	学校で、好きな授業がある	▼ 52.9	53.5	58.2
38	話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている	▼ 8.2	10.5	15.4
39	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	▼ 52.5	61.0	59.8
40	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	◎ 32.8	34.5	31.3

2 児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・「授業に関すること」「家庭学習に関すること」「学びに向かう力に関すること」の質問項目において、昨年度から割合が低くなった項目が多い。特に「学びに向かう力」を育成するため、教師の声かけによって取組を持続させたり、協同的な学習によって達成感を味わわせたりすることが必要になる。
- ・授業とノートを結びつけた指導が増え、児童生徒が「書くこと」に対する抵抗感もなくなりつつある。今後も継続して指導していく必要がある。
- ・家庭学習時間の達成度は、小学校については昨年と変わらず、中学校については割合が高くなっている。引き続き学習内容や方法等の手立てを講じながら指導していく必要がある。

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

学校質問紙調査

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値
着色は全国平均以上の項目。◎は昨年度より上昇、▼は低下した項目

【小学校】授業に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
33	授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた	◎ 89.5	74.2	76.0
34	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた	◎ 73.7	52.5	60.0
38	授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した	◎ 89.5	69.0	76.0
18	自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができている	▼ 31.6	21.9	32.0
35	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた	▼ 36.8	30.0	52.0
36	様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	◎ 36.8	34.9	36.0
37	発言や活動の時間を確保して授業を進めた	◎ 63.2	51.2	48.0
39	学級やグループで話し合う活動を授業などで行った	◎ 84.2	57.1	76.0
41	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	◎ 36.8	22.4	12.0
42	本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した	▼ 47.4	31.3	52.0
43	資料を使って発表ができるよう指導した	◎ 36.8	29.6	32.0
44	自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした	▼ 31.6	31.2	36.0
52	I C Tを活用して、協働学習や課題発見・解決型の学習指導を行った	▼ 26.3	18.9	28.0
51	学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童に伝えるなど積極的に評価した	◎ 63.2	47.7	40.0
15	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる	▼ 15.8	12.0	16.0
16	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる	▼ 31.6	23.3	32.0
17	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	▼ 15.8	9.4	16.0
19	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる	◎ 15.8	5.6	4.0
12	児童は、熱意をもって勉強していると思う	◎ 36.8	26.5	36.0
13	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	◎ 63.2	39.3	56.0

【小学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
90	国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	◎ 89.5	87.3	88.0
91	国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	◎ 84.2	69.8	80.0
92	算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	◎ 94.7	88.3	92.0
93	算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	◎ 94.7	71.1	80.0
94	保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った	◎ 84.2	55.4	64.0
95	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った	◎ 84.2	45.6	52.0
97	家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	◎ 63.2	41.2	52.0
96	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた	◎ 47.4	27.3	20.0

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値
着色は全国平均以上の項目。◎は昨年度より上昇、▼は低下した項目

【中学校】授業に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
33	授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた	▼ 66.7	65.4	91.7
34	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた	58.3	43.2	58.3
38	授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した	58.3	44.0	58.3
18	自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができている	◎ 8.3	17.6	0.0
35	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた	◎ 33.3	25.8	25.0
36	様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	16.7	28.2	16.7
37	発言や活動の時間を確保して授業を進めた	▼ 25.0	38.9	50.0
39	学級やグループで話し合う活動を授業などで行った	▼ 50.0	45.1	58.3
41	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	16.7	18.8	16.7
42	本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した	▼ 8.3	21.5	25.0
43	資料を使って発表ができるよう指導した	▼ 16.7	22.1	25.0
44	自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした	◎ 41.7	25.6	33.3
52	I C Tを活用して、協働学習や課題発見・解決型の学習指導を行った	▼ 8.3	14.2	16.7
51	学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価した	41.7	38.4	41.7
15	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる	0.0	11.8	0.0
16	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる	16.7	25.5	16.7
17	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	0.0	10.3	0.0
19	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる	0.0	6.1	0.0
12	生徒は、熱意をもって勉強していると思う	33.3	24.2	33.3
13	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	▼ 33.3	53.0	41.7

【中学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H29佐伯	H29全国	H28佐伯
88	国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	◎ 75.0	53.1	50.0
89	国語の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	◎ 75.0	52.9	41.7
90	数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	▼ 83.3	56.8	91.7
91	数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	▼ 58.3	53.7	83.3
92	保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った	◎ 33.3	35.0	8.3
93	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った	◎ 50.0	33.6	25.0
95	家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	◎ 41.7	30.6	25.0
94	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた	◎ 16.7	15.7	8.3

2 学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・目標（ねらい・めあて）を示す活動や、学習内容を振り返る活動については全国値を上回っているが、小学校において、言語活動の適切な位置付けが昨年度の値を下回っている。
- ・小学校において、学級やグループの話し合い活動に関して、肯定的な回答の割合が下がってきている。活動のねらいや方法を意識した指導が必要になる。
- ・中学校において、昨年度から引き続き、自分の考えを伝えることや、相手の考えを聞くこと、さらに自分の考えを深めたり広げたりすることに課題がある。話し合い活動における内容の充実を図る取組を進める必要がある。
- ・家庭学習の充実に向けた取組について、小・中学校ともに改善の傾向が見られるが、数学の指導については、家庭学習の評価も含め、授業と連動した取組が必要となる。

今後の取組について

○各校における学力向上プランの確実な遂行

- ・各校で学力調査の分析を行い、課題の改善策について共通理解し、組織的に実践する。
- ・短期のPDCAサイクルで検証・改善を進める。

○「目標達成に向けた組織的な授業改善推進手引き」を活用した校内研修の推進

- ・学校の重点的課題、重点目標と連動した5点セットの作成と、実践的研修を充実させる。

○「新大分スタンダード」に基づく授業の質の向上

- ・「めあて・課題・まとめ・振り返り」の質の向上を意識した授業実践。
- ・生徒指導の三機能を意識した授業実践。
- ・各学校における実践を、佐伯市学力向上実践研究事業において交流・普及を進める。
- ・佐伯市学校教育研究会教科部会と連携し、部会研究と重ねて授業改善の取組を進める。

○家庭学習指導の見直し

- ・宿題の内容や出し方、点検、評価、併せて家庭との連携の在り方を校内で検討し、実践する。

○学びの基盤となる学級集団づくり、仲間づくり

- ・児童生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくための主体的に取り組む協同的な活動の実施と、取組のサポート。